

# 吹田の民話

## 市民舞台

吹田市地域無形民俗文化財に指定されている「権六おどり」をモチーフにした舞台「踊らせて恋」が20、21日に吹田市泉町2丁目のメイシアターで上演される。出演者は公募で選ばれた10〜70代の市民や学生ら16人。本番を直前に控え、稽古に励んでいる。



稽古をする出演者たち＝吹田市

「踊らせて恋」20・21日上演

舞台のポスター＝吹田  
市文化振興事業団提供



## 地域と阪大生 交流の演劇

メイシアターと大阪大学の共同事業。2011年度から、地域住民と阪大生が交流し、地域発信型の演劇をつくることを目的に始まった。脚本、演出は関西在住のプロが手がける。

5回目の今年は、吹田市の山田地域に伝わる「権六おどり」がテーマだ。地域の言い伝えでは、権六は山田村の円照寺の修理を手がけた宮大工。村で見かけた美女・お杉に一目ぼれし、仕事に身が入らず修理が進まない。見かねた村人が、お杉が片思いする和尚に書いた恋文を、権六宛てだとうそをついて渡したところ、機嫌が良くなった権六が一気に寺を完成させた、という話で、この時の権六のしぐさが踊りの振り付けの由来とされる。

吹田市在住の劇作家、横山拓也さん(39)が、この昔話を下敷きに、「モチたい」と切望する若者たちが権六おどりを現代風に作り直すという脚本に仕立てた。過去のお杉の恋と現代の若者の恋が入り交じり、笑って楽しめるラブコメディになったという。

出演する市民は仕事や学校が終わった後に集まり、週2回ほど稽古を重ねてきた。お杉役を演じる高校1年の別所ゆきのさん(16)は2年ぶりの出演になる。「演じることで全く違う世界にいけるのが楽しい」。神戸市の特許事務所勤務の西脇美奈子さん(48)は「仕事から離れ、みんなが一つのものを作り上げるのが純粹に楽しい」と話す。

演出を手がけた兵庫県西宮市の小原延之さん(48)は「観客と出演者が地続きの舞台。プロにはないリアルティーを楽しんでほしい」。前売り1800円、当日2200円。学生は前売り・当日ともに1500円。全席自由。問い合わせはメイシアター(06・63380・2221)。 (大貫聡子)